

# 平成29年度 事業報告書

大慈デイサービスセンター

## 1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自律的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故の無い様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

## 2. <中・長期計画>

●最終目標 『ADLが向上するデイサービスの構築を目指す』

●中期計画

- ①経営理念やビジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる
- ②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質向上を図る

## 3. <部門別目標>

### <ケア部門>

① I ADL（手段的日常生活動作）を維持することで在宅での生活を安心して送れる。

洗濯サービス、重度利用者の増加により、下膳や洗濯物畳みなど業務内容が変更されつつあるために、利用者に手伝っていただく風景が当たり前となり、個々で役割を持たれている方も多くある。軽度利用者には機能維持は十分に行えており、積極的にレクリエーションへの参加される方が多く、福祉道具（歩行器・車椅子）に頼らない対応を心がけている。

学習療法は登録6名を維持しており、目標人数には届かなかったが、療法をされている方は長期利用に繋がる事が多くあり、アピールして人数を増やしたい。

②職員の介護技術スキルアップを目指す

過介助の廃止については、意識できており、極力車椅子に頼らずに歩行機会を増やす事を行った。職員研修の参加についてはあまり出来ず、次年度は呼びかけたい。

### <経営部門>

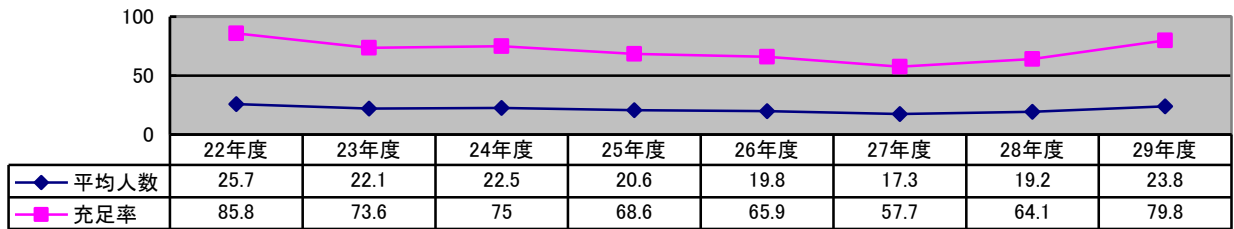
①充足率65%及び平均登録者25名を目指し、経営基盤の安定を図る

②広報戦略を練り、新規顧客獲得を目指す

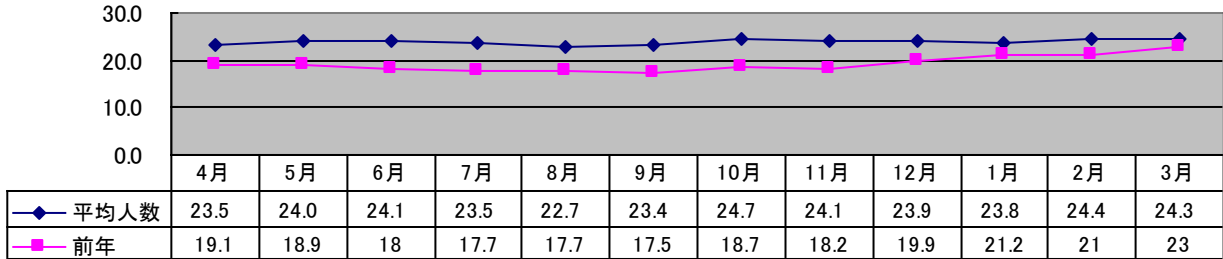
③生活機能の維持・向上を目指す

前年度より15.7%の増加があり、平均して75%～80%台を維持する事が出来た。利用回数の増加依頼が多く、また新規利用者についても週2回以上からの依頼が多い年度であった。

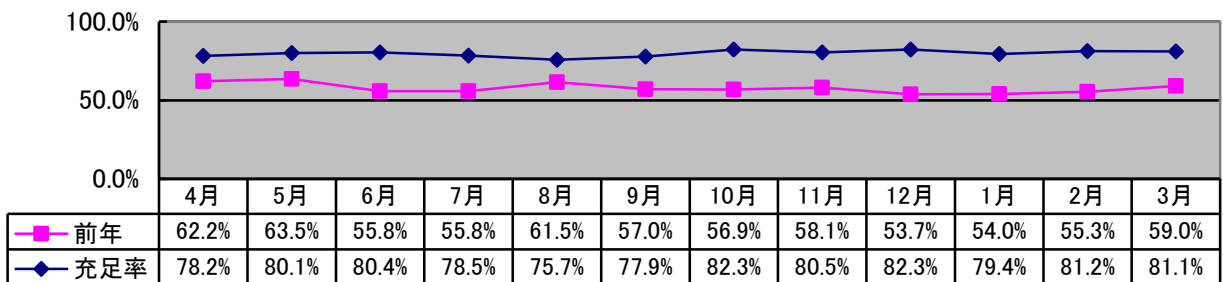
年度別推移



29年度月別人数推移



29年度月別充足率推移



●主な欠席理由

月	営業日数	体調不良	私用	入院	SS	警報	合計
4月	25日	26	8	20	20	0	74
5月	27日	15	14	17	16	0	62
6月	26日	4	10	14	17	0	45
7月	26日	3	12	17	30	0	62
8月	27日	8	24	6	28	28	94
9月	26日	19	13	5	24	0	61
10月	26日	16	23	9	18	0	66
11月	26日	32	14	7	14	0	67
12月	26日	20	6	13	16	0	55
1月	26日	37	26	16	13	0	92
2月	24日	13	14	11	17	0	55
3月	27日	15	14	18	16	0	63
計	合計	208人	178人	153人	229人	28人	796
	月均	17.3人	14.8人	12.8人	19.7人	2.3人	66.9人
	割合	20%	17%	14%	21%	2%	—

●曜日別年間平均人数等（料金は目安）

	人数	料金	欠席数
月	26.2	246,576	3.6
火	21.0	188,746	4.7
水	24.6	247,303	2.3
木	20.6	189,620	3.5
金	25.0	234,871	4.1
土	26.1	260,643	2.5
平均	23.9	227,960	3.4

●加算等別件数

		前年度	平均	差
個機能訓練加算Ⅱ	人数	3.9	5.8	1.9
	回数	31.3	58.7	27.4
運動機能向上加算	人数	1.6	0.9	-0.7
洗濯サービス	人数	16.9	22.3	5.4
園芸療法	人数	3.0	2.9	-0.1
学習療法	人数	4.2	4.7	0.5
弁当	人数	6.3	7.8	1.5
	回数	76.6	81.9	5.3

●介護度別年齢別等人数表

平成30年3月31日時点での実人数

要介護度	平成29年度				平成28年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	59	27	32	84.5歳	52	9	43	81.7歳
支援2	38	0	38	87.2歳	99	19	80	86.1歳
1	252	60	192	86.6歳	175	47	128	87.8歳
2	152	69	83	87.3歳	169	76	93	87.3歳
3	168	75	93	82.3歳	182	135	47	83.7歳
4	47	8	39	85.7歳	49	4	45	85.4歳
5	62	13	49	79.8歳	74	19	55	82.5歳
合計	778	225	456		800	309	491	
平均介護度		2.4	2.3	2.3		2.4	2.3	2.4
平均年齢		81.7歳	87.0歳	85.1歳		83.3歳	87.6歳	85.7歳
最高年齢		93歳	98歳			99歳	95歳	
最小年齢		69歳	55歳			67歳	68歳	

<栄養科>

- ①調理の味と質の安定を図る
- ②毎日笑顔になれる食事の提供

笑顔になれる食事の提供について、誕生日メニューの充実を図るとしてメニューを大きく変更はしなかったものの、陶器に丼物や弁当箱にお寿司風おにぎり、松花堂弁当に

アンケート結果より上位の天ぷら、エビフライ等を盛り方や提供方法等を工夫して喜んで頂くことが出来た。次年度は月2回食事行事を行うため、弥勒園で行っていた食事行事をデイにも盛り込んでいき、より満足度の高い食事行事を展開していきたい。

●年間行事食

日付	行事名
4月	誕生日週間
5月	母の日週間、洋食バイキング、
6月	から揚げバイキング、父の日週間、誕生日週間
7月	そうめん・おにぎりバイキング
8月	かき氷、粉ものバイキング
9月	パフェ作り
10月	洋食プレート、誕生日週間
11月	洋食プレート、誕生日週間
12月	唐揚げ、クリスマス週間、誕生日週間
1月	餅つき、誕生日週間
2月	串揚げ、ひな祭り週間
3月	唐揚げ、誕生日週間

<看護部>

①バイタルチェック

バイタルサインチェックを的確に行なうことができ、ゲストの様子も把握できていた。細かな変化にも注意を払い、状態の悪化にも対応できていた。

今後も業務の中でCWとコミュニケーションを図りながら連携強化に努め、ゲストに適切なケアが提供できるように努力していきたい。

<理学療法科>

<実践目標>

- ①個別機能訓練の充実
- ②機能レベル維持・向上が出来るデイサービスセンター作り
- ③在宅生活における相談に対して、適切なアドバイスができる

訓練対象者に対して、運動実施に関しては特に問題もなく施行でき、現状機能レベルを維持する事ができた。また、総合事業の一環として、軽微な運動を集団活動として取り組んでいく中で、送迎時間との重なり等もあり、充実したものを実施する事ができなかった。相談等に対する窓口の設置はできていないが、個人的な生活動作等の相談に対しては随時で対応はできている。

4. <施設整備等>・・・49万以下の主な工事等を記載

項目
テーブル・椅子の購入
アンプ・マイク・チューナーセット購入
障害者用トイレの改修工事

5. <会議の実施内容・反省点>

- ①デイ検討委員会②デイ部会

6. 《会議の実施内容・反省点》  
 7. 《職員会議・OFF-JT》

弥勒園同様

8. 《行事の実施内容・反省点》

●年間行事

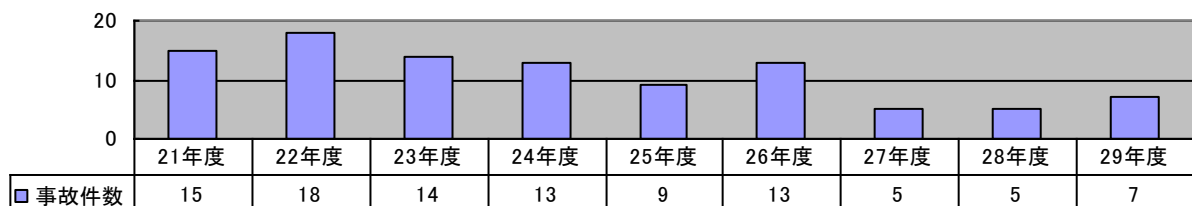
行事名	時期
園庭お花見	4/3～4/8
母の日会	5/1～5/6
買い物ツアー①	5/8～5/20
父の日会	6/12～/17
喫茶店へ行こう	6/19～6/30
七夕週間	7/1～7/7
デイサービス夏祭り	8/7～8/12
買い物ツアー②	9/18～9/30
敬老会	9/11～9/16
秋の外出・ランチバイキング	10/9～10/21
クリスマス会	12/18～12/23
初詣	1/2～1/8
もちつき大会	1/8～1/13

9. 《リスクマネジメント報告》

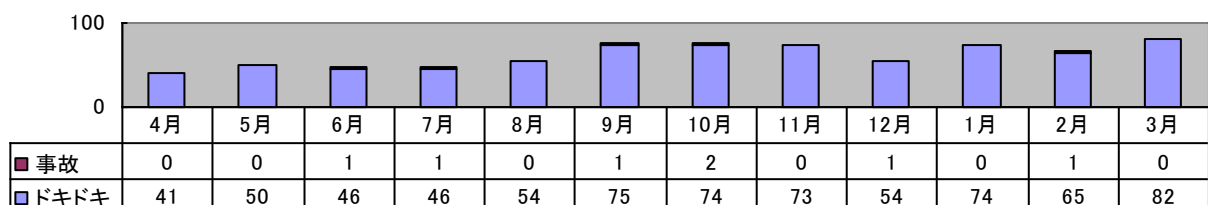
☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数・・・ 734件（事故7件、ドキドキ727件）  
 前年度707件（事故5件、ドキドキ702件）

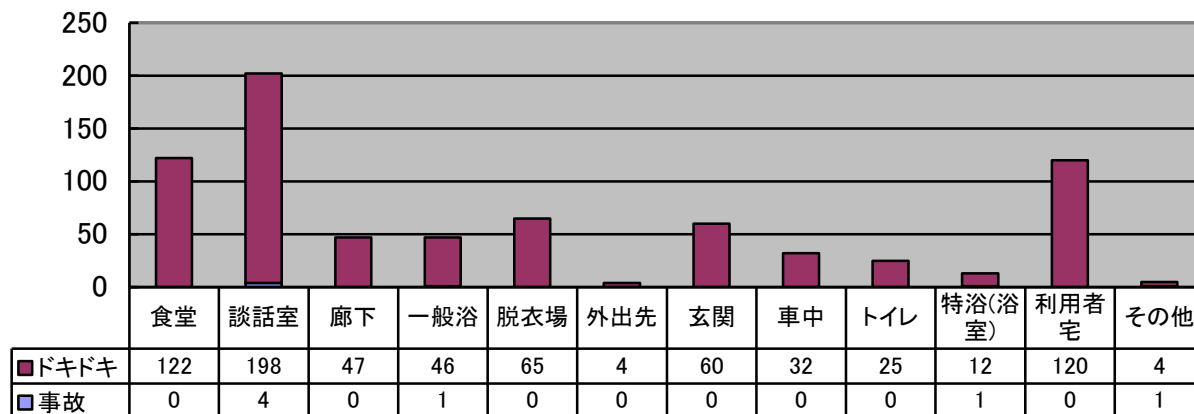
<年度別事故件数>



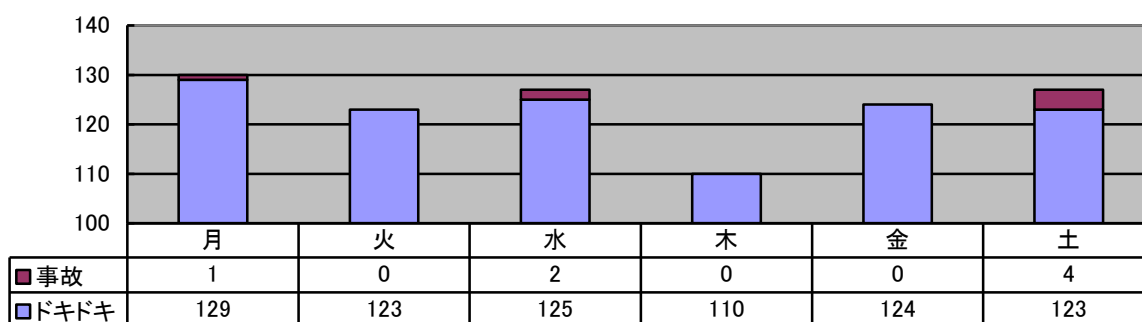
<事故・ドキドキ件数>



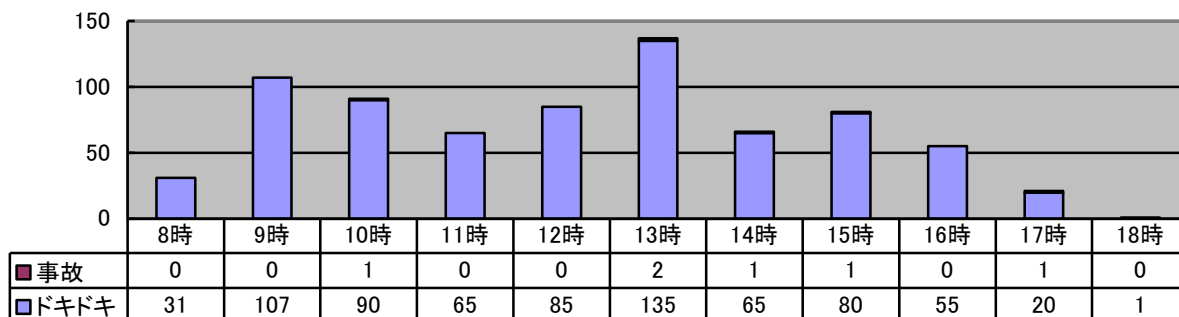
②発生場所別件数



③発生曜日別件数



④時間帯別件数



⑤リスク面まとめ

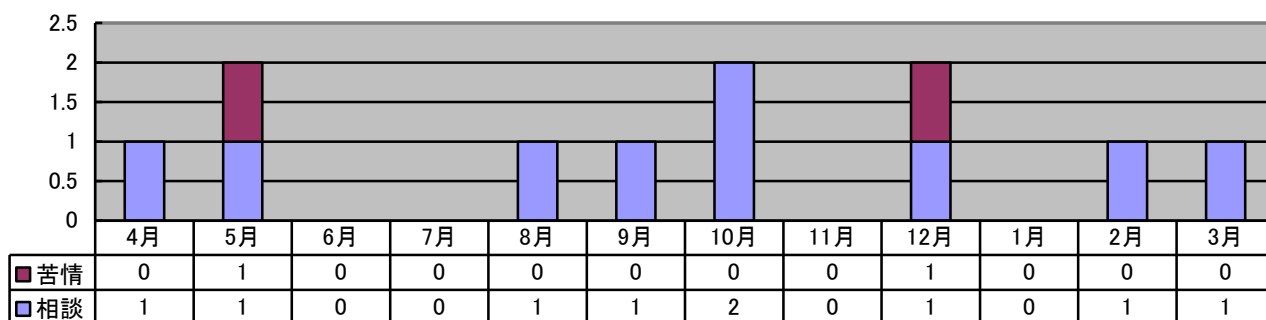
前年度より事故件数が2件増加している。内容面では、転倒による搬送・西神南までの離園事故による重篤な物が多くある。送迎の分野での増加が多く、職員の見守り体制等を再検討した。

10. 《苦情・相談報告》

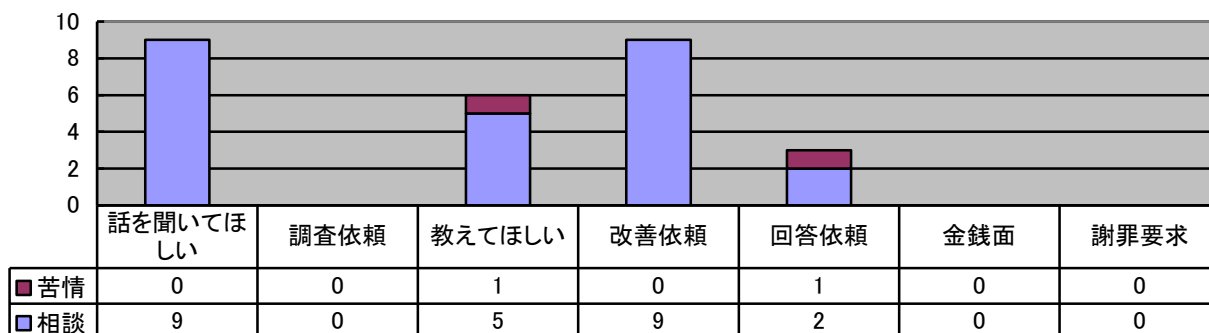
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

①報告件数・・・9件（苦情報告2件、相談報告7件）

前年度・・・15件（苦情報告2件、相談報告13件）



## ②要望分類



## ③主な内容

前年度は電話報告などの報告不足などが多くあったが、今年度はケアマネジャーへの情報の行き違いなどからの確認・改善事項などが多くあった。またご本人からではなく、ご家族の要望の高い様子が見受けられる。

## ④まとめ

圧倒的に利用者本人よりも家族・ケアマネジャーよりの声が多くある。報告ミスなども多いため、伝え忘れなどを減らして状況説明をこまめに行っており、次年度はトラブルにつながらないようにしたい。

## 11. 《総括》

前年度と比較し、問い合わせ・利用回数の増加も多くあり、平均充足率を79.8%までに引き上げる事に成功した。中重度型2年目となり7時間～9時間枠への利用人数が増えたことが大きな要因と言える。体験利用促進は継続しており、デイサービスが良いものと伝えるきっかけとなった。

今後もチラシ配布と共に常に契約率・問い合わせ件数の増加を目指したい。契約率については当年度68%(前年度72%)となっており少し減少傾向である。預かり型となりがちなサービスの内容を少しでもADL上昇が出来るデイサービスとし、邁進していきたい。